

JAMトピックス

中 小 企 業
問 題 を 考 究 する
シ ン ポ ジ ウ ム

課題の共有と取り組みへ

中小企業労使がシンポジウム

JAMなど産別組織と中小企業経営者団体・学識有識者などで構成する「新時代に向けた中小企業問題研究会」は2014年6月28日、联合会館で「中小企業問題を考えるシンポジウム」を開催し、JAMや連合加盟各産別、経営者団体などから200人あまりが参加した。このシンポジウムは、日本の社会を支えているのは中小企業とそこで働く労働者であり、賃金・労働時間など労働諸条件の不合理的格差の是正や、企業基盤の安定・強化のための政策と実現は労使共通の課題との認識に立ち、中小企業の抱える課題と各組織の取り組みの共有、今後の取り組みへの反映を目的に、基調講演やパネル討論が行われた。



<200人余が集まり中小問題を考えた>

基調講演では、「中小企業労使の目指す道」と題し黒瀬直宏・嘉悦大学教授が登壇。安倍政権が進めている成長戦略は昔ながらの大企業中心の政策であり、円安になったが輸出は伸びずトリクルダウン



<市場経済の人間化がめざす道と説く黒瀬氏>

はないとして、①中小企業は内需型であり、大量輸

出による急成長はないが安定的な雇用を形成する
②経営力分散、対等取引、参入自由の経営民主主義
③市場経済の「人間化」が中小企業のめざす道だと述べた。



<パネラーとして3名登場>

「経済の民主化で持続可能な社会をめざす」をテーマにしたパネル討論では、コーディネーターに早川行雄・連合総研主任研究員。パネラーに広浜泰久・中小企業家同友会全国協議会幹事長、宮本礼一・JAM書記長、黒瀬直宏・嘉悦大学教授が登壇



<中小企業の労使の役割を語る狩谷氏>

し討論。大企業にはもはや経済を牽引する力はない。しかし、安倍政権の成長戦略など政府の経済政策は大企業の競争力強化のために中小企業への課税拡大など犠牲を転嫁し、格差拡大に向かわせている。その対抗軸として、中小企業が中核となった「人間の顔をした市場経済」など健全な経済の構築に取り組んでいくことが、安定した持続可能な経済社会のみならず日本の政治や社会の民主主義の基盤を作っていくことになる。そのために中小企業の労使の役割が重要であるとまとめられた。